

《資 料》

アメリカ大学図書館活動の一観察

——アメリカ大学図書館訪問記——

神 立 春 樹

目 次

- 1 はじめに
- 2 アメリカ大学図書館の状況
 - (1) バークシャー・コミュニティ・カレッジ (Berkshire Community College)
 - (2) ジャージー・シティ・ステイト・カレッジ (Jersey City State College)
 - (3) ウィリアムズ・カレッジ (Williams College)
 - (4) マサチューセッツ大学・アマースト校 (University of Massachusetts Amherst)
 - (5) ハーバード大学 (Harvard University)
- 3 アニュアル・レポートにみる大学図書館の現状
 - (1) アニュアル・レポートの特徴
 - (2) アニュアル・レポートにみる問題点
- 4 アメリカ大学図書館活動の印象

1 はじめに

本年度の6月に、短期間ではあったが、渡航しアメリカに滞在した。アメリカの大学における日本研究文献所在状況を、アジア・日本研究の一拠点であるハーバード大学イエンチェン図書館 (HARVARD-YENCHING LIBRARY) についてみたいということであったが、より一般的には、アメリカの大学、大

学図書館、公共図書館をみたいということであった。この後者については、ことに、図書館における集書の在り方、集書と図書館員の関わりに最大の関心があり、それについてかねてから読み聞きしていたことを実際に確認したいということであった。この問題関心は先に記した小論「岡山大学附属図書館における収書の在り方について——岡山大学における人文社会科学系の研究条件の整備の一環として——」（本誌第24巻第4号 1993年3月）の延長線上にある。

このアメリカ滞在期間（1994年6月4日～16日）、ニューヨークのJ・F・ケネディ空港到着日とその翌日、ニューヨークに宿泊した後、パークシャー・コミュニティ・カレッジ（マサチューセッツ州ピッツフィールド）のレイスロップ（Donald N. Lathrop）教授の家に滞在した。その家そのものはニューヨーク州のケイナンという町にあるが、そこはマサチューセッツ州との州境である。そこからマサチューセッツ州の各地などを、日帰りであるいは宿泊して訪問した。交通手段は車である。訪問先の中心は大学図書館、公共図書館である。その訪問時の見聞と入手した資料をもとに、この旅行で得たことを記したい。訪問した大学図書館は、小論の五つの大学図書館のほかいくつかあるが、それらのうちニューヨーク大学、ペニンソン・カレッジは簡単な案内を入手し、ノースアダムズ・ステイト・カレッジは夜間担当者の話を聞くにとどまった。当初予定していたアマースト大学はマサチューセッツ大学アマースト校を訪問したあとで時間がなくなり、マサチューセッツ工科大学はハーバード大学訪問のあとの同様の理由で、構内を車で通過するにとどまり、図書館に入館して話を聞き、資料を入手するということができなかった。小論ではある程度見聞することができ、また資料などを入手できた五つの大学について記すこととする。このほか訪問した三つの公共図書館についても記したいことがあるが、別の機会としたい。

2 アメリカ大学図書館の状況

(1) バークシャー・コミュニティ・カレッジ (Berkshire Community College)

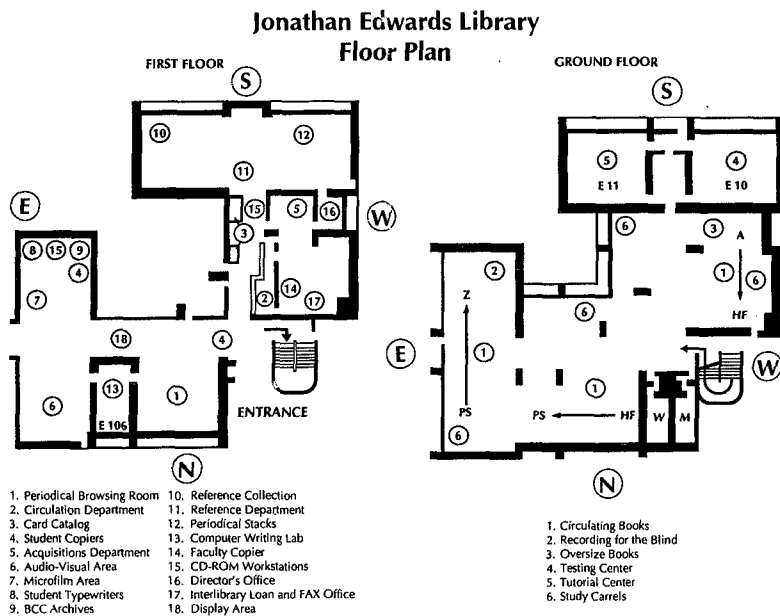
このカレッジは、バークシャー・カウンティのピッツフィールドに1960年に設置された2年制の大学である。マサチューセッツ州の15のコミュニティ・カレッジ機構の最初のものである。当初は、市内のかつてのジュニア・ハイスクールの建物を使用してスタートした。1972年に市の中心から4マイル離れた現在のウエスト・ストリートの壮大な180エーカーの敷地のモダンな建物群キャンパスに移転した。1984年にグレイトバーミントンにサウスカウンティ・センターを設置した。27の準学士 (associate degree) ・資格授与 (certificate) プログラムがある。学生数は当初の153人が現在の登録数約2500人となった。(『BERKSHIRE COMMUNITY COLLEGE CATALOG 1994～1995』)

図書館はジョナサン・エドワーズ図書館 (Jonathan Edwards Library) と称する。パンフレット『Jonathan Edwards Library 1993/94・Information for Faculty and Staff』によると、5万冊の図書と340の定期刊行物を所蔵する、小規模の図書館である。この図書館には個人指導センター (Tutorial Center) と試験センター (Testing Center) がある。図書館のスタッフは、館長 (Director), 副館長 (Assistant Librarian), 補助ライブラリアン (Adjunct Librarian), 個人指導担当者 (Tutorial Coordinator) 各1人と、図書館助手 (Library Assistant) 4人の8人である。このうち、補助ライブラリアンはパート・タイムで夜間を担当する。図書館助手の1人も補助である。

このパンフレットのサービスの項において、サービス事項の内容と連絡先の名前をあげている。図書資料の貸出 (Circulation of Materials) : Bobbie Kuhlman, 指定図書 (Reserve Service) : Bobbie Kuhlman, 参考調査部門 (Reference Department) : Maryjane Fromm または Arleen Flaherty, 個

人指導サービス (Tutorial Services) : Jane Pellish, 図書館間貸借 (Interlibrary Loan) : Pat Tucker, 図書館オリエンテーション (Library Orientation) / 書誌指導 (Bibliographic Instruction) : Maryjane Fromm または Arleen Flaherty, 利用者案内 (User Guides) / 図書館開示 (Library Display) : Maryjane Fromm または Arleen Flaherty, 選択的情報サービス (Current Awareness Services) : Bobbie Kuhlman, バークシャー・コミュニティ・カレッジ文書 (BCC Archives) : Maureen Masoero である。これらの人々は, Maryjane Fromm は図書館次長, Arleen Flaherty は補助ライブラリアン, Jane Pellish は個人指導担当者, Bobbie Kuhlman, Pat Tucker, Maryjane Fromm は図書館助手である。これによると, 図書館次長は参考部

第1図 ジョナサン・エドワーズ図書館平面図



註1) 『Jonathan Edwards Library 1993/94 Information for Faculty and Staff』より。

門、図書館オリエンテーション、書誌指導、利用者案内、図書館開示を担当する。補助ライブラリアンはそれらとともに担当する。個人指導担当者は個人指導サービスを担当する。貸出、予約、図書館間貸借、最新情報サービス、カレッジ文書は、図書館助手の担当である。

聞取りでは、館長は予算、雇用、図書館政策を担当し、また、購入図書の見終決定を行なう、図書館次長は選書を行なうという。すなわち、図書の選択購入については、教授陣 (Faculty Men) は情報の提供を受けて、希望を出す、図書館次長が選書し、館長が最終決定する、図書館助手が図書の発注などの実務を行なうという仕組みになっている。

ライブラリアンの大きな仕事の一つがクラスにおける図書館オリエンテーションと書誌指導で、101の英語クラスのすべてがこれを受ける。ライブラリアンはクラスにおける教育の一端を担っているのである (前掲「カタログ」)。

館長、ライブラリアンはいずれもいずれも図書館学修士 (Master of Library Science) の学位をもつ。前掲の「カタログ」に掲載の「職員表」によると、館長 Nancy Walker はスミス・カレッジで人文学士 (Bachelor of Arts) の学位、ニューヨーク州立大学アルバニー校で図書館学修士を取得、図書館次長はニューローエル・カレッジで人文学士の学位、アメリカンカトリック大学で図書館学修士を取得している。この「職員表」には記載がないが、聞取りでは個人指導担当者は教育学修士 (Master of Education) の学位をもち、図書館助手はいずれも大学教育を受けた人という。

この「職員表」をみると、館長、図書館次長は教授陣などとともプロフェッショナル・スタッフ (Professional Staff) を構成している。補助ライブラリアンはイブニング・ライブラリアン (Evening Librarian) で、パートタイム・プロフェッショナル・スタッフとなっている。図書館助手4人のうち3人はサポート・スタッフ (Support Staff) 欄で確認できた。図書館助手はライブラリアンとは大きく異なるのである。

以上のことから、この小規模のカレッジにおいても、ライブラリアンは専

門職として大きな権限をもち、教育に深く関与していることがわかるのである。そしてその責任もまた大きいといえよう。

開館時間は授業期間中は、月曜日～木曜日：午前7時30分～午後8時，金曜日：午前7時30分～午後5時，土曜日：午前9時～午後2時，授業休業期間は月曜日～金曜日：午前7時30分～午後5時，である。午前7時30分からという早朝からの開館ということが目につく。

(2) ジャージー・シティ・ステイト・カレッジ (Jersey City State College)

今回のアメリカ大学訪問で最初に訪れたのはジャージー・シティ・ステイト・カレッジである。ここで記すほかの四つの大学はすべてマサチューセッツ州に所在するなか、このみは異なる。ハドソン川をはさんでニューヨーク市の対岸にあるニュージャージー州の州立の大学である。『The World of Learning』1994, 44th edition (Europa Publication Limited) によると、この大学は、1927年設立、現在教員数285人、学生数7000人、図書数25万冊、とある。この大学は、当初、ジャージー・シティ・ステイト・ノーマルスクールとして設立され、ニュージャージー・ステイト・ティーチャーカレッジ・ジャージーシティ校となり、さらに現在の名称のカレッジとなった（『JCSC Commencement 1994・5・2』）。文理校 (School of Arts and Sciences) と専門・教育校 (School of Professional Studies and Education) とからなり、学士課程 (Undergraduate) は、人文学士 (Bachelor of Arts) と理学士 (Bachelor of Science) のほか、芸術学士 (Bachelor of Fine Arts) と看護学士 (Bachelor of Science in Nursing) の学位を授与し、大学院 (Graduate School) は人文学修士 (Master of Arts) の学位を授与する（前掲コメンズメント，および『Undergraduate Bulletin 1992/1994』）。

図書館はフォレスト・エイ・アーウィン図書館と称する。その図書館ガイド（『Forest A. Erwin Library Guide』）によると、蔵書数25万冊で、スタッ

写真1 フォレスト・エイ・アーウィン図書館



1994年6月6日筆者撮影

フは、館長 (Director), 副館長 (Assistant Director) のほか、ライブラリアン (Librarian) 8人で、合計10人である。ライブラリアンは参考調査室 (Reference Room) (2階) 4人, 定期刊行物室 (Periodicals Room) (2階) 1人, 合衆国政府文書 (U. S. Government Documents) (2階) 1人, ニュージャージー州文書 (New Jersey Documents) (2階) 1人, 図書館間貸借 (Interlibrary Loans) (2階) 1人という担当で、それぞれその場所に配置されている。わが国の場合は、多くは、司書は参考調査を除いて、各事務室で、利用者と隔絶したところで仕事とをしているが、この配置は、それぞれ利用者にオープンになっていて、アドバイスを受けやすくなっている。聞き取りではこのほかに書記が12人いるということであるが、取書、目録作成、

貸し出しなどの仕事はそれらが当るのであろう。

前掲「学士課程ブルティン」の「教職員」(Faculty and Staff)によると、これらのライブラリアンの多くは、準教授 (Associate Professor)、助教授 (Assistant Professor)、講師 (Instructor) という教員身分 (Faculty Status) をもつ。館長は準教授 (図書館学) で、助教授は4人である。助教授身分のライブラリアンは、助教授・副館長1人、助教授 (図書館学) ・目録 (Catalog) ライブラリアン1人、助教授・指定図書 (Reserve) ライブラリアン1人、助教授 (図書館学) ・収集 (Acquisition) ライブラリアン1人である。講師 (図書館学) の2人はいずれも定期刊行物・公文書 (Periodicals and Documents) 準ライブラリアンである。このほかは、教員身分の併記のないライブラリアンⅢ、ライブラリアンⅡ、参考 (Reference) ライブラリアン、各1人である。

館長を含め10人のライブラリアンはすべて修士の学位をもつ。例えば、館長 (Robert S. Nugent) はコロンビア大学の理学士、人文学修士の後、ラトガース大学で学び図書館学修士をもつ。館長以外でみると、図書館学修士6人 (うちあわせて理学士1人、人文学修士2人)、理学士2人 (うちあわせて人文学修士1人)、人文学士1人 (あわせて理学士をもつ) である。

開館時間は月曜日～木曜日：午前8時～午後9時、金曜日：午前8時30分～午後5時、土曜日：午前9時～午後5時30分、である。

(3) ウィリアムズ・カレッジ (Williams College)

前掲『The World of Learning』によれば、1791年にフリースクールとして認可され、1793年にカレッジとして認可された歴史の古い大学である。そこには学生数2045人、教員数171人、そして蔵書数65万5855冊と記されている。

ゆるやかな起伏のある450エーカーのメインキャンパスは芝生が広がり、樹々で覆われ、そこに99の建物と44の居住建物が点在している。ウィリアムズタウンを、『チェンジ』誌1985年7・8月号 (1985) は、全国第一の大学町

43人, 4年生 (Seniors) 519人, 3年生 (Juniors) 538人, 2年生 (Sophomores) 503人, 1年生 (Freshmen) 517人である。学士課程 (Undergraduate) 中心の小規模の大学である。前掲「ウィリアムズ」によれば, 学士課程学生数2015人, 専任教員数238人で, 専任教員1人にあたり学生11人である。学生の94%がキャンパス内に居住し, オックスフォード方式のチュートリアル (Oxford-style Tutorial) で行われる。学士課程のアカデミックプログラムは人文社会系を中心とした29の主専攻 (Major), 8の集中 (concentration) があり, 人文学士学位が与えられる。

大学図書館はソーヤー図書館 (Sawyer Library) と称する。ほかに科学書のチャピン図書館 (Chapin Library) がある。蔵書数はソーヤー図書館68万5515冊とチャピン図書館2万9473冊で, 合計71万4988冊である。政府文書34万9745タイトル, マイクロフィッシュ35万4404タイトルである。

ここでは, 参考首席 (Head of Reference) のリー・ダルゼル (Lee B. Dalzell) ライブラリアンから話を聞き, 『REPORT OF THE COLLEGE LIBRARY 1992/93』を頂いた。すべてのカタログがコンピューター化されていること, 図書館職員はライブラリアン12人, サポート・スタッフ (Support Staff) 20人, それに学生60人ということ, ライブラリアンは一つの部門を担当するという, を聞いた。図書の購入であるが, 図書はすべてライブラリアンを通じて発注される, とのことである。

この「レポート」によると図書館職員の配置はつぎのようになっている。
 管理部 (Administration) 一館長 (College Librarian), 副館長 (Assistant College Librarian), ライブラリアン助手 (Assistant to the Librarian), 事務室助手 (Office Assistant)

参考 (Reference) 一首席参考ライブラリアン (Head of Reference), 参考ライブラリアン (Reference Librarian) 2人 (うち1人はパートタイム), 科学参考ライブラリアン (Science Reference Librarian), カタログ・記録文書ライブラリアン (Cataloger/Documents Librarian)*, 図

書館間貸借助手 (Interlibrary Loan Assistant)

技術サービス (Technical Services) — 首席技術サービスライブラリアン (Head of Technical Services), カタログ・記録文書ライブラリアン (Cataloger/Documents Librarian)*, 技術サービスライブラリアン (Technical Services Librarian) 2人, 首席収書・継続出版物ライブラリアン (Head of Acquisitions/Serials), 継続出版物助手 (Serials Assistant), 技術サービス助手 (Technical Services Assistant) 6人, 図書整理事務職員 (Book Preparation Clerk), 収書助手 (Acquisitions Assistant) 2人,

指定 (Reserve) — 首席指定ライブラリアン (Head of Reserve), 夜間指定管理者 (Night Reserve Supervisor)

貸出 (Circulation) — 首席貸出ライブラリアン (Head of Circulation), 貸出助手 (Circulation Assistant) 2人, 書庫管理助手 (Stack Assistant), 深夜貸出助手 (Late Night Circulation Assistant)

大学文書・特別コレクション (College Archives/Special Collections) — 大学文書・特別コレクションライブラリアン (College Archivist/Special Collections Librarian), ウィリアムス文献助手 (Williamsiana Assistant)

チャピン図書館 (Chapin Library) — チャピン図書館保管ライブラリアン (Custodian of the Chapin Library), ライブラリアン (Librarian)

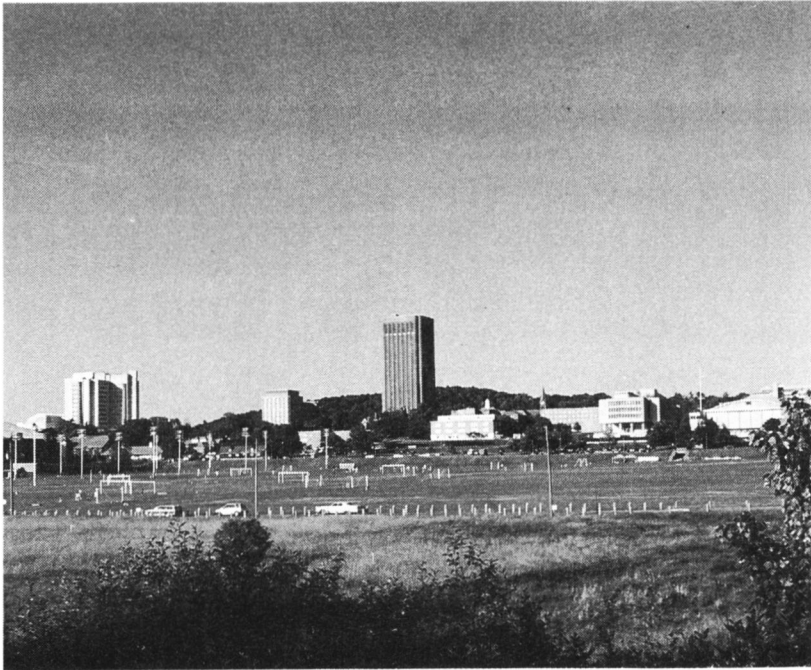
(*印は一つの定員 (full-time position) を二部門に分割したものであるという註記がある。)

開館時間は月曜日～木曜日：午前8時～深夜1時, 金曜日：8時～午後9時, 土曜日：午前9時～午後9時, である。学生は深夜1時まで利用できる。

(4) マサチューセッツ大学・アマースト校 (University of Massachusetts Amherst)

前掲『The World of Learning』によれば、この大学は、1863年マサチューセッツ農業大学として認可され、1931年にマサチューセッツ・ステイト・カレッジと校名変更、1947年ユニバーシティとなる。学生数2万3344人、教員数1138人、蔵書数247万2612冊である。文理カレッジ (Arts and Sciences—それは人文および芸術 [Humanities and Fine Arts], 社会・行動科学 [Social and Behavioral Sciences], 自然科学・数学 [Natural Sciences and Mathematics] からなる), 食糧・自然資源カレッジ (Food and Natural Resources), 工学カレッジ (Engineering) の三つのカレッジと、公衆衛生校

写真2 マサチューセッツ大学アマースト校大学図書館



1994年6月9日筆者撮影

(Public Health), 看護校 (Nursing), 経営校 (Management), 教育校 (Education), 体育校 (Physical Education), 大学院 (Graduate School) の六つのスクール (School) からなり, 付施設としてストックブリッジ農学校 (Stockbridge School of Agriculture) がある。マサチューセッツ州立大学機構を構成する4大学 (アマースト, ポストン, ロウエル, ダートマス) の中の最も古く, 最も規模の大きい大学である。

遠方より林立する高層建築物群が目映るが, 広大なキャンパスに諸施設がある。構内で目についたものの一つは農業機械工場であったが, カレッジの一つに食糧・自然資源カレッジがあったり, 付設の農業学校があったり, あるいはこの農業機械工場などはここが農業大学としてスタートしたことと関係があるものと思われる。なお, 札幌農学校のクラークは, このマサチューセッツ農業大学の初代学長であり, 学長職に在職のまま, 札幌農学校の教頭として来日したのである。

大学図書館は, 中央図書館 (The Main University Library) と生物科学図書館, 音楽図書館, 自然科学図書館の三つの分館と地図コレクションからなる。中央館はキャンパスの中心地に一際際立って聳え建つ28階建の高層の建物である。中央館には人文社会科学の書物のほとんどが所蔵されている。(『Library Guide for the five colleges AMHERST-HAMPSHIRE-MOUNT HOLYOKE-SMITH-UNIVERSITY OF MASSACHUSETTS』1993)。

中央館の開館時間は, 月曜日～木曜日: 午前8時～深夜12時間, 金曜日: 午前8時～午後5時, 土曜日: 午前9時～午後5時, 日曜日: 午前10時～深夜12時で, 参考調査ライブラリアンは午後10時～11時を除くすべての時間に義務がある。

ここでは, 蔵書構築担当暫定副館長 (Interim Associate Director for Collection Development) のジャンヌ・コクス (Jeanne Kocsis) ライブラリアンが対応して下さった。広い部屋で仕事をされていたが, テーブル上は, 資料が, 研究者が文献を机の上に拡げて研究しているように, 拡げられ

ていた。

図書の集書については、計画プログラムにもとづき集書する。これは英語のものであるが、出版社よりこの大学で教授されている主題についての書物が毎週送られてくる。4人のライブラリアンが書誌、選書にあたる。館長もしかりである。ライブラリアンは、教授たちの主題をよく知るために接触する努力をしている。

『Annual Report for Fiscal Year 1993 UNIVERSITY LIBRARY University of Massachusetts Amherst』によると、93会計年度のスタッフの合計数 (total staff) は139人である。92会計年度のそれは142人で、うちプロフェッショナル・スタッフ (Professional Staff) は51人である。この大学の図書館であれば、総数205人が必要で、うち専門的スタッフは71人必要であるという。

ここには、ライブラリアンの活動の記録が記されている。専門的活動 (PROFESSIONAL ACTIVITIES) はライブラリアンの年間の業績を各人別に記している。それは論文であったり、目録作成であったり、あるいは会合の議長役を勤めたなどと多様である。

任命 (Appointment) の項には新規採用2人を掲載している。1人は教育参考ライブラリアン (Education Reference Librarian) のポストに参考部門のライブラリアンⅡとしての採用である。この人物はウイスクンシン大学で人文学士と理学士の学士学位をとり、南フロリダ大学で人文学修士 (図書館情報科学) 学位を取得したという学歴、これまでスプリングフィールド市図書館で参考図書ライブラリアンを勤め、最近サンダーランドのグレイス記念図書館の館長を勤めたという職務歴を記している。もう一つは参考司書の臨時ポストに参考部門のスタッフ・アシスタント (Staff Assistant) として採用された例である。

昇進 (Promotions) の項には、4人の昇進が記されている。2人がライブラリアンⅢからライブラリアンⅣへ、2人がライブラリアンⅣからライブラ

リアンVへの昇進である。役職ではなくライブラリアンとしての昇進こそが重要であることを示している。

ジャンヌ・コクシス ライブラリアンは、この大学図書館の現在の状況はよくないという。それはアニュアル・レポートにも記されている。そこには現在のアメリカ大学、ことに州立大学のかかえる問題点が鮮明にでているように思われる。このアニュアル・レポートについては後に検討する。

(5) ハーバード大学 (Harvard University)

前掲『The World of Learning』によれば、ハーバード大学は、1636年設立、1650年勅許され、現在、教員数2167人、学生数1万8556人である。この大学はその創立は17世紀の前半という古く、その発展過程は複雑である。この世界に冠たるハーバードの歴史を記す書物はいくつかあるが、ここでは簡単な案内書『HARVARD AT A GLANCE』によって一瞥する。

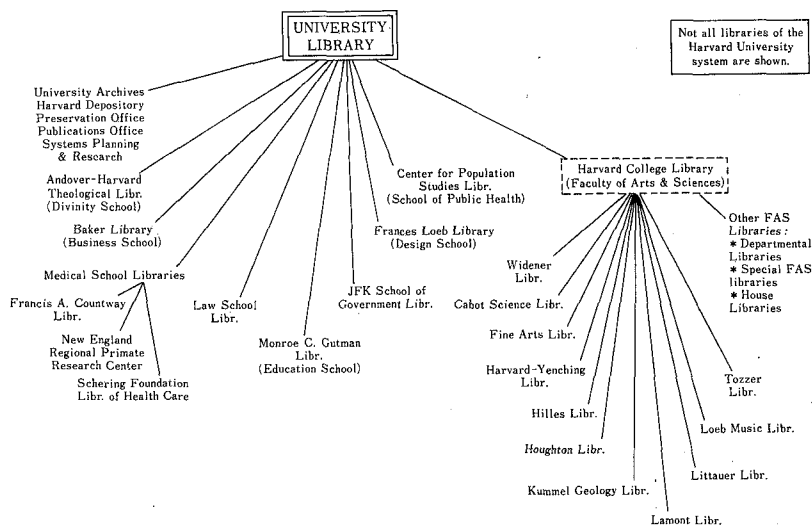
ハーバード大学は、アメリカで最も古い高等教育機関であるハーバード・カレッジ (Harvard College) として1636年に設立、1650年勅許状を与えられ、1780年に university として認められた。この初期の時期に多くの人材を輩出している。1869～1909年のエリオット学長の時代にハーバードは相対的に小さい地方的なカレッジから近代的なユニバーシティーにかわった。ハーバード・カレッジだけであったものに、法学校 (Law School)、医学校 (Medical School) を再生し、そして、経営管理大学院 (Graduate School of Business Administration)、歯科医学校 (School of Dental Medicine)、文理大学院 (Graduate School of Arts and Sciences) が設立された。また1879年設立、早くからハーバードと関係してきたラドクリフカレッジ (Radcliff College) も包括され、現在は、以上のほかに、公衆衛生校 (School of Public Health)、ジョン・エフ・ケネディ行政校 (John F. Kennedy School of Government)、デザイン大学院 (Graduate School of Design)、教育大学院 (Graduate School of Education)、神学校 (Divinity School)、エクステン

ジョン校 (Extension School) などからなる。1993年6月の卒業生は学士学位1571人, 大学院学位4241人, 合計5812人である。ファカルティーメンバーは, 文理学部931人 (文理大学院を含む), プロフェッショナルスクール1134人, 合計2065人である。

このような成立ちによって複雑な構成をとるハーバード大学の図書館もまた複雑である。

『A Guide to Harvard University Library』(1993)によれば, 1638年からのハーバード大学図書館は, アメリカ合州国で最古の図書館であり, 世界で最大の大学図書館である。ここには, 1200万冊の図書, それにマニュスクリプト, マイクロフィルム, 地図, 写真, スライド, そのほかの資料がある。それらは90以上の図書館に所蔵されている。それらの図書館はほとんどがケンブリッジとボストンにあるが, 遠く離れたワシントンDC, イタリアのフ

第3図 ハーバード大学図書館組織概観



註 「OVERVIEW OF HARVARD UNIVERSITY LIBRARY SYSTEM」
Harvard College Library Public Services HMO 1/27/92

ローレンスにもある。そして A List of Selected Libraries の欄に図書館名、所属、所在場所、開館時間、所蔵図書資料を個別に記載している。

第3図は、このハーバード大学の図書館組織図である。大学図書館（ユニバーシティライブラリー）は、カレッジ図書館といくつかのプロフェッショナルスクール図書館より構成される。カレッジ図書館はいくつかの図書館を包摂する。先にみたハーバード大学の成立過程からみて、歴史的にもカレッジ図書館が中核となるのである。いくつかの構成館のなかワイドナー図書館が人文社会の最大の研究図書館で、ハーバード大学最大の300万冊を所蔵し、いくつかの部門図書館をもつ。ここは全学総合目録を具えている。このワイドナー図書館が全学の中央図書館である。

『The World of Learning』の「SELECTED UNIVERSITY LIBRARIES」にあるハーバード大学図書館についての記載をみると、図書館には Director、すなわち、館長がおり、ほかにハーバードカレッジライブラリアン（カレッジ図書館長）がある。そしてさらに、それぞれの図書館にもライブラリアン（図書館長）がいる。

個別図書館別では、ワイドナー図書館が約300万冊（田辺宏・荒岡興太郎『世界の図書館めぐり』1986 雄松堂）のほか、法学校（Law School Library）が147万冊、イェンチェン図書館（Harvard-Yenching Library）が75万冊、ベーカー図書館（Baker Library (Business School)）56万冊、カントウェイ図書館（Countway Library (Medical School)）56万冊が大規模図書館である（『The World of Learning』前掲）。

この図のなかのラモント（Lamont）、ヒルズ（Hilles）、カボット科学（Cabot science）の3図書館は undergraduate（学士課程学生）図書館である（『A Guide to Harvard University Library』、前掲『世界の図書館めぐり』）。

これらの学校課程学生図書館の開館時間はつぎのとおりである。ラモント図書館 月曜日～水曜日：午前8時45分～午前1時、木曜日：午前8時45分～深夜12時、金曜日：午前8時45分～午後10時、土曜日：午前8時45分～

午後5時，日曜日：正午～午前1時。休日も大方開館。ヒルズ図書館 土曜日
も午前8時45分～午前1時であり，このほかはラモント図書館と同じで，
休日も大方開館。カボット科学図書館 月曜日～木曜日：午前9時～深夜12
時，金曜日：午前9時～午後5時，土曜日：午前9時～午後10時，日曜日：
午前10時～深夜12時。

学生図書館の開館は年中を通じて深夜に及ぶものであり，学生の学習の場
としての役割を十分に果せるようになっている。

このハーバード大学では，イエンチェン図書館の呉文津（Eugene Wu）館
長と青木利行（Aoki Toshiyuki）ライブラリアンが応対して下さった。以下
は青木利行ライブラリアンの訳による呉文津館長の話である。

このハーバード大学は中央化していないが，それは図書館についてもいえ
る。ユニバーシティライブラリアン（大学図書館長）はいるが，各図書館は
独自の権限をもっている。ここはカレッジ図書館の一部であるが，一つの単
位としての運営の仕方がある。一般的なガイドラインがあり，どれも従う
が，この一般的なポリシーとガイドラインを守りながらそれぞれに決定して
いく。

このイエンチェン図書館にはフルタイム・スタッフが32人いるが，14人は
プロフェッショナルで，18人がサポートスタッフである。プロフェッショナル
は，図書館学修士の学位を有している。しかし図書館学修士でないものもい
る。たとえば稀覯書の担当，パブリックサービスの長は図書館学の専門では
ない。ハーバードの学術博士（Ph.D）をもつ。サポートスタッフは，非専門
的であるが，2，3人図書館学修士をもっている。ポジションがなく，サ
ポートスタッフとなっているとのことである。ほかにも学位所持者がいて，
総じて教育レベルは高い。ここのスタッフは2～3カ国語を身につけてい
る。日本，中国，韓国の大学出身者もいる。

図書館の集書であるが，図書館が責任をもって図書を集める。一部門一人
責任制であって，青木ライブラリアンは日本部門の責任者である。図書館が

図書を選択するが、日本の大学との違いは図書館とファカルティのコンタクトが緊密であることであろう。

呉館長は、かなり長期にわたり館長の任にある模様である。ワイドナー図書館で最もあかるい人ということで紹介いただいたのであるが、このベテランのライブラリアンの、「集書については、教員のティーチングにとっての必要性、将来の必要性にもとづき、集書する。後者については、入手できるときにしておかないと、将来手に入らなくなる。普通は10～15%の本しか貸出されていない。いつも使われているわけではないが、必要となるものは入れておくことが大切だ。」という言葉は、変哲もないことではあるが、図書館の役割の普遍の真髄を示すものであるように思われた。

3 アニュアル・レポートにみる大学図書館の現状

(1) アニュアル・レポートの特徴

入手できた三つの大学のアニュアル・レポートの内容構成は以下のごとくである。

ハーバード大学のものは、表紙は『Harvard University Library including Harvard College Library Annual Report 1992-1993』となっていて、内容構成は、館長報告 (Report of the Director: Structure and Functions of the University Library, HOLLIS and Reconn Project, Harvard Depository, Preservation Office, University Archives), 人々 (People: Appointments, Departures, Staff awards and activities), Publications. Exhibitions が続く。その後各部局図書館長報告 (Reports of the Faculty Librarians: Harvard College Library, Baker Library [Business School], Loeb Library [School of Design], Andover-Harvard Theological Library, Gutman Library [School of Education], Kennedy School of Government Library, Harvard Law School Library, Countway Library of Medicine, Schlesinger Library [Radcliffe

College] がある。そしてその後に贈与と補助金 (Gifts and grants) がつづき、最後に統計諸表 (Statistics) がある。

マサチューセッツ大学アマースト校のものは、『Annual Report for Fiscal Year 1993 UNIVERSITY LIBRARY University of Massachusetts Amherst』で、文章報告 (NARRATIVE REPORTS) と表 (TABLES), それに附録 (APPENDICES) からなる。文書報告は、まず館長報告 (DIRECTOR'S REPORT) がある。それは、Current Status, Acquisitions, Staffing, Automation, Conclusion からなる。その後、COLLECTION DEVELOPMENT, TECHNICAL SERVICES, PUBLIC SERVICES, がそれぞれのヘッドによって記されている。

さらに、表 (TABLES: は、I Library acquisitions budget in nominal dollars . . . , II UMA Library Historical Statistics, III Regressions on Public Institutions in ARL からなる。附録 (APPENDICES) は、(A) ARL Membership Criteria Index, 1991-92. (B) Acquisitions Summary; Sources and Uses of Funds. (C) Acquisitions Expenditures by Category, 1987-1993. (D) Numbers of Books and Serials Purchased, 1987-1993. (E) Statistics of the Collection, Fiscal Year 1993. (F) Operating Expenditures, and Size of Staff. (G) Public Services Statistics, 1989-1993. (H) Reference and Interlibrary Loan, FY93 compared to FY92. (I) Special Collections and Archives Department. (J) Audio Visual Department. (K) Government Documents Department. (L-1) Professional Activities. (L-2) Professional Personnel Actions. (M-1) Donors of Library Materials. (M-2) Contributors to the Friends of Library である。

ウィリアムズ・カレッジのものは『WILLIAMS COLLEGE LIBRARY WILLIAMSTOWN, MASSACHUSETTS REPORT OF THE COLLEGE LIBRARIAN 1992/93』となっている。

館長のレポートは、AT THE SERVICE DESKS, REFERENCE SERVICES, Library Instruction, Services in the Sciences, Online Search Service, Inter-

library Loan, The Federal Depository, TECHNICAL SERVICES, PRESERVATION, NOTEWORTHY ACQUISITIONS, THE COLLEGE'S BICENTENNIAL, ACKNOWLEDGMENTS からなる。

その後に、EXHIBITS. LIBRARY STAFF. LIBRARY COMMITTEE. STATISTICS. DONOR LIST. GIFTS AND ENDOWMENTS がある。

いずれも図書館長，あるいは部門の首席が全体あるいはそれぞれの部門の図書館活動の状況，達成度・問題点などを文章体で記し，それに統計を付すというものである。財政状況を開示し，図書資料提供者，贈与などについて個々について記載するなど，支援者を大切にしている。展示などの催しを積極的に取入れ，その結果を記している。

ことに注目すべきは，ハーバード大学の People，マサチューセッツ大学アマースト校の Professional Activities, Professional Personal Action で，ここでは先にアマースト校で記したようなライブラリアンの専門的諸活動や，採用・退職にあたりライブラリアンとしての実績の紹介などが掲載されていることである。ここにもライブラリアンの Professional としての状況が示されているのである。

(2) アニュアル・レポートにみる問題点

マサチューセッツ大学アマースト校の『Annual Report for Fiscal Year 1993 UNIVERSITY LIBRARY University of Massachusetts Amherst』の館長報告（図書館長Richard J. Talbot）をみよう。

まず，Current Status で，つぎのような位置づけをする。

本学の図書館は，92年度に，加盟する研究図書館協会（ARL: the Association of Research Library）の108校中90位で，91年度の93位から僅かに向上した。しかしそれは国の経済の景気後退による学術研究図書館全体の環境の悪化によるのであり，本学のそれは実際にはより悪くなっている。87年度の49位から年々低下しているのであり，全般的な経済悪化がなければ92

年度はもつと下がったであろう。

ついで、Acquisitions では、つぎの検討を行なっている。

図書館の Acquisitions funds において、92年度に比して93年度は大きな改善を記録した。それは高等教育調整審議会予算からの購入基金が3倍となったことによる。それにより定期継続刊行物の確保と図書の獲得の急激な増加が可能となった。しかし、向上はあったものの、将来はもっと悪くなるであろう。ARL における同規模の図書館と比肩するには、92年度は購入費は400万ドル強であるべきなのに、現実には217万ドルに過ぎない。一方では、仮想ライブラリー、すなわち印刷体資料ではなく、未来のエレクトロニック・ビジョンに集中すべきだという主張がある。確かに、図書館も時代に合った動きをすべきであるし、またそうしている。すべての大きい図書館はエレクトロニック情報メディアを漸次増大している。しかしながら図書館予算の購入力量は増加しない。実質額で大規模研究図書館の予算は20年前と同じで、しかも最近はずかずつながら減少している。そのために、図書館は購入についての苦にみちた選択、エレクトロメディアの急増により、より苦痛となるという選択をしている。

そもそも、電子情報は、廉価でないばかりか、印刷体形態に、いまのところとって代るものではない。電子またはバーチャル図書館（仮想図書館）が直接的に予見できる未来に、印刷体図書館にとってかわることはできない。本学の図書館が実行できる唯一の実際的な図書館政策は、おおよそ同格の図書館のレベルの資金を調達することである。図書館は、印刷体の収集を強調しつつける政策を遂行しなければならない。というのも印刷体が学生や教員が最も必要とする情報を含んでいるからである。そして利用可能になるに従って電子情報にアクセスすることにもつとめるなければならない。

このことは、困難でまた苦痛にみちた過程であるが、しかしそれは唯一の効果的なものであろう。最近の研究チームによる研究はつぎのような結論に到達している。第一に、図書館は収書を維持し強化するために図書と定期刊

行物の獲得をしつづけなければならない、そして、公刊される資料の領域の急速な拡大、価格の急速な上昇の二つに直面にもかかわらず収集を強化しなければならない。第二に、図書館は電子情報技術の急速な出現と発展にどのように対応していくかを決定しなければならない。

Staffing の節は図書館職員の問題を論じている。

本館の職員問題は91年度に危機的状況となった。以来、改善されないのみでなく、より悪化している。本図書館は200人以上が必要なのに、94年度は142人である。最近の、今後数年の予算計画はより低い Staffing さえ指し示している。いまやほかの研究図書館と同じサービスを提供しつづけることはできない。最も重要なサービスに集中し、他から撤退しなければならない。選択の余地がないが、しかしそのプロセスは困難でまた錯綜したものであろう。スタッフはスペシャリストで構成されているのであり、入れ替わり得る自動人形ではない。変化は漸次にのみ可能であり、機能の新たな限定づけと新技術の獲得を要するであろう。反語的であるが、いくつかの伝統的な機能を縮小しなければならないのみでなく、オートメーションによる節約もスタッフの欠落という単純な理由から妨げられ引きのばされるであろう。例えば、図書館間貸借に使用する新しい検索装置はより多くのスタッフなしではフルに利用することはできない。

Automation ではつぎのように記す。

オートメーションは図書館の今日的状況の中の輝かしいスポットである。数年のプランと数月の努力のあと、本図書館および連携5大学の図書館は、最新式の自動方式を設置しようとしている。しかしオートメーション化も予算の関係で順調には進まない。

そしてConclusion でつぎのごとく記す。

いかなる図書館であっても、研究図書館でさえも、際限なしに成長するという目標を設定することはできない。この国の最大の学術研究図書館でさえもこの考え方を1970年代に放棄した。本図書館は1971年にはつきりとこの考

えそのを放棄した。それ以来、この図書館と、すべての学術研究図書館は、コレクションとサービスのセットをその共同社会に提供するという、実用的な、操作的な目標を追求している。この種の目標は、ますます強調される電子形態による情報の供給という環境のもとでも主張されるであろう。過去が序の口であるとすれば、図書館は親施設の予算の決められた割合を受け取りつつけるであろう。そして、みずからの予算は実質ドルでは上昇せず、過去数年よりも下落さえするであろう。そして、その限度内で彼等が獲得した主題別書架をいつそう減少し、他方、同時に情報を主として電子形態でアクセスすることを企てなければならない。

マサチューセッツ大学図書館にとっての独自の問題は、同類の研究図書館と同じレベルの資金的蓄積がないことである。過去の25年にわたり、この大学の学術支援会計は、図書館がその一つであるが、FTE（フルタイム登録の正規）学生ベースの全国平均よりはるかに下であった。そのみではない。この図書館の資料購入資金は外部会計からキャンパスにくるので、図書館はそれをコントロールできず不規則に上下するので、図書館予算を極端に気紛れなものとしている。そのみか、この外部資金にもかかわらず、総図書館予算は1980年代半ばの短期間を除いて、同類の図書館のその75～80％程度であり、そしていまやそれと比べてさらに落ちることは明白となっている。そのような不足は”赤字”をもたらす。そしてそれはどんなに儉約しても、工夫しても克服することはできないのである。将来の資金の運用が同類の図書館のそれと同じになるという期待は現実的ではなく、大学図書館の予算が少なくともつぎの2、3年に10～20％の増加に失敗すれば、この図書館を恒久的な並のレベルに落し入れ、アメリカ大学協会のランク入りというキャンパスの野望を恐らくは危険にさらすであろう。

ここには、財政難のもとで、公立大学の図書館予算の削減、人員削減による、図書購入、サービスに大きな後退をもたらしていることが示されている。

る。前者については、図書館を従来の印刷体資料図書館から、電子図書館・仮想図書館という非印刷体図書館への転換という将来との関わりで、図書の購入を消極的にみる考え方について反論を行なっている。そして、相応しい図書資料をこそ備えつけなければならないという、ライブラリアンの自覚のほどが示されているのである。

4 アメリカ大学図書館活動の印象

アメリカの大学キャンパス、大学図書館の素晴らしさは、よく聞くとところである。このようなハード面、施設面の素晴らしさはいうまでもないが、ここでは図書館のソフト面の関心から訪問した5大学の図書館を通じて感得したことをここで整理しておきたい。

第一は、図書の選択・購入が大きくライブラリアンに依拠していることである。第二は、ライブラリアンの専門職として確立していることである。ここに蔵書構成の発展があるのである。第三に、教員の授業展開を支え、クラスにおける授業も担当し、そして学生の学習役割を果す努力をしていることである。第四は、学生の学習に対応する努力をしていることである。深夜に及ぶ図書館開館などはその好例である。ライブラリアンは研究者のサポーターとして、また学生教育に深くかかわるのである。マサチューセッツ大学アマーフト校のアンニュアル・レポートにみるような厳しい現実があるが、総じてアメリカ大学図書館は以上の限りの観点からみても充実したものとなっている。

ハーバード大学エンチェン図書館では、呉文津館長より日本の大学図書館における収書についての私見を求められた。それには、日本では、ことに国立大学では図書の選択に図書館員が関与することは小さく、図書の購入は教員によって行われるが、このような収書の在り方が、ことに図書館員の関与が小さいことが、収書を不十分なものとし、蔵書構築における大きな欠陥

をもたらすこと、そしてそれは国立大学は図書館に独自の図書購入費が僅かしか配分されず、購入はいわゆる研究費によるという予算のシステムによって、と述べた。図書館員が図書選択・収書に深くかかわり、図書館員が専門職としての役割を果たすときがくるでしょうか、という私の言葉に対して、青木利行ライブラリアンは、「かならずそうなりますよ」、とのことであったが、アメリカにおけるライブラリアンの今日の在り方も歴史的に実現できてきたものであることを思えば、それはありえないことではないであろう。それにつけても、アメリカにおける歴史的過程には多くの学べきことがあると思われる。

(1994年9月30日)